

鏡野町総合計画審議会（第4回） 議事録

日時：令和7年11月14日（金）

午後1時30分

場所：鏡野町役場庁舎3階 特別会議室

1 開会

事務局：挨拶

中村会長：これから基本計画となり、かなり具体的になってくる。それぞれの知見からご意見をいただけ
るようお願いしたい。

2 協議事項

①審議会の傍聴について

～事務局より説明～

中村会長：意見はあるか。

小椋委員：6人というのはなにか理由があるか。

事務局：会場の都合ということで、あまり大人数ではという意味である。危機管理センターでは少し手狭
になるのでどうかと考えている。

小椋委員：決まりはないのか。5人の方が聞こえがよいのではないか。

米山委員：HPに予定を掲載され、町民以外がみることもあると思う。町民限定ということでしょうか。

事務局：町民に限らず、希望があればどなたでもと考えている。

中村会長：特に意見がなければ、事務局案のとおり傍聴を実施するということにする。

②第4回審議会での協議事項 基本計画（案）について

～事務局より説明～

田中委員：項目の中で必要なところを端的に取り上げていただき、ディスカッションの時間を長く取ったほうが良いのではないか。

中村会長：ポイントだけの抽出で最後まで説明した方がよいのではないか。

～事務局より続きの説明～

中村会長：なにか意見はあるか。施策の目的の部分が KPI になってくる。簡潔に書かれているので、意見がほしい。また数値目標についても目標に近づいていることが分かるようにつくっているが、結びつけながらご意見いただきたい。

小椋委員：目標値の設定について、2P で虐待の早期発見について、総数によってかなり動くものであり、率で行った方がよいのではないか。10 件のうち 2 件となっているが、60% を目標にした方が良い。他の項目も同じこと。6P の受入数など、待機児童はゼロが一番良いので、受け入れ数が多くても待機児童がいてはしょうがない、20P の高齢者虐待の件数、48P の火災発見件数、52P の犯罪件数など、目標はゼロが一番良く、達成はできずとも減っていくということを目指していきたい。

中村会長：本来ゼロであるべきものの目標の記載の仕方には工夫が必要かもしれない。

近藤委員：6P の受入園児数について、いまの出生数は何人か。

事務局：6 年度で 67 人である。

近藤委員：乳児から 6 歳児までだとして計算が合わないのではないか。ここまで数字にならないのではないか。精査してみてはどうか。

農業関係で 27P①に農直後の所得とあるがどういう意味か。

事務局：意味合いとしては新規に農業を始めてすぐの状態かと思われる。表現を確認する。

前田委員：6P の成果指標に鏡野町の好きなところがある年長児の割合というのは必要だろうか。子どもたちは大人について町内を訪れるので自発的に行くわけではないから。

事務局：郷土愛醸成や社会生活との関わりとして、地域に関わりを持つようになることが示されているので、指標の一つとしている。年長児アンケートをとっている。

中村会長：年長児に郷土愛をアンケートで聞くことがどの程度の意味合いを持てるのか、政策評価の基

準にすることが曖昧なものである可能性がある。

影山委員：68Pの人口の減少について、年長児に聞くのではなく、中学生に将来鏡野町に定住するために好きな魅力があるのかなどを聞くことで、将来住み続けたい、夢がある、といった内容になるのではないか。

前田委員：以前アンケートで鏡野町にずっと住み続けたいかというアンケートがあった。別にずっと住み続けたいわけではないが、そこに土地と家があるから住みたいとした。
答えようがない答えにチェックをしないといけないことがあり、困った経験があった。

中村会長：アンケートを評価基準にするにあたって、アウトプット指標半分、アウトカム指標半分ならよいが、アンケート指標が多くならないよう気を付けた方がよいかもしれない。

影山委員：34Pの観光客に来てもらうという意図については、観光にきて使ってもらった金額や満足度など、お客様視点での指標があると良いのではないか。

近藤委員：10Pの成果指標の全国学力平均に比べてマイナスなのをゼロにしたいことだと思うが、体力テストの0.64を10にするという意味を教えてほしい。

事務局：現状では全国平均との差が0.64あるということ。今でも全国平均よりも上であり、さらに上(1.0)まで差を拡げたいと考えているものである。

山根委員：中学生の部活動地域移行の話がいろいろあり、受け入れる団体の関係も困っている。生涯学習・スポーツか学校教育かはわからないが、中学生の支援になる項目があつてもよいかと思う。生涯学習はどうしても高齢者の方が中心に見える。

前田委員：22Pの障害者福祉、成果指標で、地域生活をしている割合はあるが、就労している人の割合が知りたいと思う。現状で社会参加や就労できる支援が必要となっているため。

事務局：把握できれば盛り込みたいので担当課と協議をしてみる。

田中委員：2Pの成果指標で子ども家庭センターの相談件数が増えているという話の中で、こども含むいろんな福祉相談が地域に潜在化して、相談に乗り切れていないので、たくさん相談にのっていくためには、件数が増えていくことも重要視して、考えるべきだと思うが、現状の文書に書かれていないため、課題が潜在化していることなどを文章に落とし込むことによって、相談数自体が増えていく目標を設定することにつながるのだと思う。

20Pの高齢者虐待の件数について、成果指標と設定理由で、数字が上がるべきか下がるべきか何を意味する数字なのか意図をはっきりさせた方が良いと思う。

72-73Pで職員の人材育成について、一般行政職として求められる業務をどう評価するかの指標であるが、コーディネート、ファシリテート、横断的な協働ができるような新しい公務員増が求められている中で、庁内で横断的な協働ができていると感じている職員の割合などの指標があれば新しい公務員像にもあってくるのではないか。

杉山委員：68Pの定住相談の窓口をしている中で、スタイルが多様化しており、2拠点で動いている人もいる。転入はしないが、地域の活動には関わってくれる人もいる。移住ではないが新しいスタイルで動かれる人もいるので、少し触れてもらいたい。そういう方に地域行事に参加いただくことを我々の活動でも推進している。

空き家が1000件あり、活用できるものは空き家バンクに登録するようにしているが、7割くらいは活用できない家になってきている。それをどうするのかが触れられていないので、気になつた。

事務局：52Pの生活安全対策の推進に空き家対策という文字が入っているが、利活用の話はいまは入っていない。

中村会長：34Pの商工業について、目標が売上利益を増やす、便利に買い物できるとあるが、本文は事業承継の問題が多く書かれているので、目標にも書くべきではないか。

60P上下水道の整備について、老朽化対策が大きな問題であり、それも明確に目標と指標にいれないといけないのではないか。

公共交通の充実について、総利用者数とあるが、前計画では利用者数という表記で桁が異なる数値である、どういった違いがあるのか教えてほしい。

斎藤委員：14P地域医療の推進について、地域の医療環境が整っていると感じる割合で1/3の方が整っていないと感じている具体的な課題があれば知りたい。

事務局：分かるようなら次回答るようにする。

田中委員：用語の使い方として、16Pの現状に健康意識の高揚とあるが、向上とシンプルにした方がよいのではないか。

19Pに重層的支援体制とあるが、包括的支援体制という言葉の方がより広い意味が持てて良いのではないか。現課に問い合わせてほしい。

64Pの見出しに公共的交通機関となっているが、その後は公共交通機関となっている、意図があるなら良いが、誤りなら統一してはどうか。

2Pの子育て支援の充実か10P学校教育の充実のどちらかに、学校と福祉の連携が言われている中で、スクールソーシャルワーカーやいじめ、不登校など、分野ごとの充実は書かれている中で連携についての記載もあると良いと思う。

中村会長：全体に指標が現状維持中心で、伸ばしている印象がそれほど多くないと感じた。新町政になつ

て、売りを作っていくことも考えていくならば、メリハリがあっても良いのではないかと思う。

ここまで時間となった

意見ペーパーがあるので、離せなかったことや感じたことを後でご提出いただけると良いかと思う。

③その他

3 連絡事項

- ・第5回審議会について（日時：12月19日（金）午後1時半 場所：危機管理センター）
- ・スケジュールについて
- ・第6回審議会について（日時：2月6日（金））
- ・パブリックコメントの結果について（資料2）
- ・答申について（資料3）

4 閉会

北山副会長：貴重な意見をいただきありがとうございます。参考にさせていただく。寒くなっているので体調に気を付けていただきたい。ありがとうございました。